

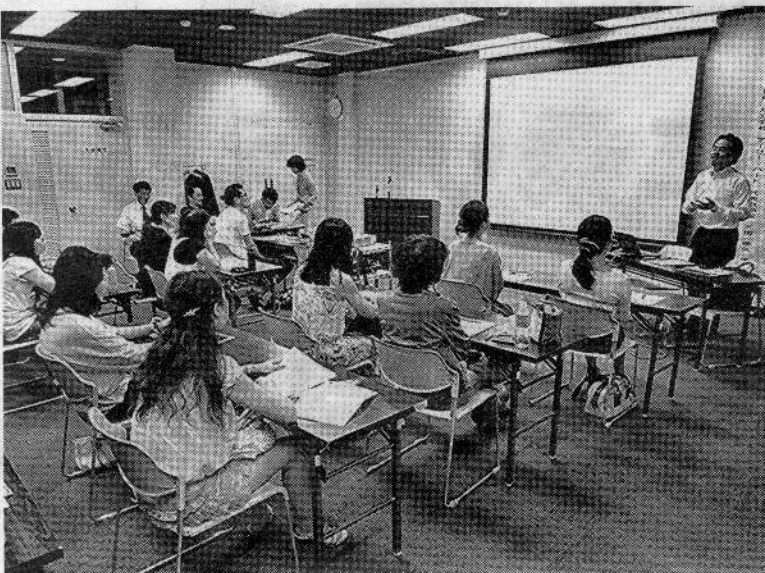
市街地再生 担い手養成

松阪紀勢版

松阪「まちなか開業塾」開講

商店街の空き店舗を活用して開業しようとする人らに起業や経営の基礎を教える「まちなか開業塾」が十二日夜、松阪市日野町の市民活動センターで開講した。市の「まちなか再生プラン」に組み込まれた施策の一つで、中心市街地の活気を取り戻す新たな担い手を養成する。

(上田寿行)



起業のイロハを学ぶ受講者ら。松阪市の市民活動センターで

起業や経営基礎教える

開業した。

本年度もこの支援を必要」と、まず起業者 万円・十二カ月分

継続するとともに「開としての決意を固め (同) 補助する。本年業のイロハを教えてほることの大切さを強 度は三件程度を予定 しい」といった現場の調。 十三日まで。

要望に応え、開業塾を 手作り家具店を開く

企画した。講師は、起 うとする四十歳の主婦 問い合わせは市商 業支援や観光まちお の事例を素材に、「地 工政策課 電059 などの事業を展開す 域でナンバーワンの 8 (53) 4361 するアーリー・バード 店」になるための経営 へ。

市は昨年度から、松 (伊勢市) の代表取締 市の空き店舗等出店

阪商工会議所や市商店 役・三田泰久さんが務 促進事業は、中心部の 街連合会なども連携し、十六人が受講し 商店街での出店者が対 し、空き店舗での出店 した。

者に補助金を出して支 三田さんは「事業を 象で、改装費等を上限 援する新制度をスター 始めたら、常に全力で 百五十万円 (補助率二 ト。一年目は、五店が 走り続けていかないと 分の二)、二年目から

コンセプトの練り方を 分かりやすく伝えた。 受講者たちは真剣な表 情で、生きた知恵を吸 収していた。

開業塾は計三回で、 次回は二十日、三回目 は二十一日。空き店舗 に開業した先輩たち の店も訪ねて話を聞 く。